

2016年3月1日

細径で高画質・広い視野・高倍率を追求した大腸ビデオスコープを発売

オリンパス株式会社(社長:笹 宏行)は、大腸がんなどの検査・治療に使用される大腸ビデオスコープを、2016年3月1日から国内で販売開始します。細径^{※1}ながらハイビジョンに対応、170度の広い視野角での観察をサポートします。さらに110倍^{※2}の光学ズーム機能が搭載され、微細な血管や粘膜の表層模様まで再現します。

大腸は4つの急峻(きゅうしゅん)な屈曲部と約120~150cmの長さを持つ臓器です。また内部にはひだがたくさんあり、くまなく観察をするのは容易ではありません。内視鏡による検査・治療においては、観察のしやすさ、挿入性と患者さんの負担軽減が課題となっています。本製品は、観察性能と挿入性の向上をサポートする技術を搭載したことにより、この課題解決を目指した新製品です。

なお、5月12日から14日にグランドプリンスホテル新高輪で開催される「第91回日本消化器内視鏡学会総会(会長:東海大学医学部医学科内科学系消化器内科学 峯 徹哉 領域主任教授)」で本製品の展示を行います。

※1 先端部の外径は11.7mm、挿入部分の外径は11.8mmです。

※2 内視鏡用フルHDTV「OEV262H」を使用した場合。

●発売の概要(国内)

販売名	発売日
EVIS LUCERA ELITE 大腸ビデオスコープ OLYMPUS PCF-H290Z シリーズ ^{※3}	2016年3月1日

※3 内視鏡検査を行うには、当社製の内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS LUCERA ELITE」のビデオプロセッサ、高輝度光源装置、ビデオモニターとの接続が必要です。

●主な特長

- 1 ハイビジョン画質と広い視野。近接した状態でも高い観察性能を発揮
- 2 拡大観察時の内視鏡の操作性の向上
- 3 挿入性向上と苦痛の低減に貢献する3つの機能を搭載



「EVIS LUCERA ELITE 大腸ビデオスコープ OLYMPUS PCF-H290Z シリーズ」

当社は戦略的事業拡大に向けグループの再編を行い、2015年4月1日より、オリンパスメディカルシステムズ(株)の機能は会社分割により一部を除いてオリンパス(株)に承継されました。医療事業は「消化器科」、「外科」、「泌尿器科婦人科」、「耳鼻科」、「医療サービス」の5事業ユニットで構成されており、本大腸ビデオスコープは「消化器科」の製品です。

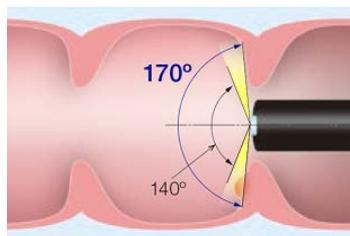
●市場導入の背景

当社は2012年11月に内視鏡ビデオスコープシステム「EVIS LUCERA ELITE」を市場に導入して以来、高精彩画像で通常観察・近接拡大観察をボタン一つで切り替える機能が搭載されたスコープ、経鼻挿入も可能な極細の高画質なスコープなどを順次発売し、スコープのラインアップを拡充してきました。また、課題である内視鏡の操作性の向上や、患者さんの苦痛軽減を目指した機能の開発にも取り組んでいます。今回発売する大腸ビデオスコープは、高画質、広い視野、観察対象に近接した場合でもクリアなイメージを実現するなど、観察性能の全体的な向上を目指しています。さらに内視鏡の操作性・挿入性の向上と苦痛の低減をサポートする技術が搭載されています。

●主な特長の詳細

1 ハイビジョン画質と広い視野。近接した状態でも高い観察性能を発揮

高画質と170度の広い視野角を実現しました。広範囲の観察ができるので、粘膜に隠れた病変部の発見をサポートします。また、明るくなった「狭帯域光観察(NBI)※4」との組み合わせにより、病変の早期発見に貢献します。



※4 狭帯域光観察(Narrow Band Imaging=NBI)。粘膜表面の微細な血管やその模様を観察しやすくするために、血液中のヘモグロビンに吸収されやすい2つの狭帯域の光を照射することで、組織が強調表示される観察方法

2 拡大観察時の内視鏡の操作性の向上

拡大観察を行う際、ズームレバーの動きに対しての急な倍率変化を抑制したことで、倍率が合わせやすくなりました。また、ズームレバーの位置を最適化し、内視鏡の操作者の手の大きさに関わらず操作がしやすくなりました。

3 挿入性向上と苦痛の低減に貢献する3つの機能を搭載

操作者の操作性向上や患者さんの苦痛軽減を目指した3つの技術が搭載されています。屈曲した形状の大腸でスムーズな挿入を行えるよう、腸壁にスコープが当たると自然に曲がる「受動湾曲」機能や、大腸の形状や長さによって操作者の手元側の力をより効率的に先端に伝えるための「高伝達挿入部」そして手元で挿入部の硬度を変えられる「硬度可変」機能を搭載しました。これにより、検査効率の向上と患者さんの苦痛の軽減に貢献します。



受動湾曲部のイメージ図

高伝達挿入部のイメージ図



硬度可変のイメージ図

本リリースに掲載されている社名および製品名は各社の商標または登録商標です。